

令和 8 年度 第 1 回大津市科学館運営協議会 議事録要旨

令和 8 年 6 月 2 5 日 (木) 15 : 10 ~

1 会長挨拶

2 協議及び質疑

(1) 令和 8 年度 大津市科学館運営の方針及び事業計画について

(2) プラネタリウム更新について

委員：今後の課題、展示物の維持管理とありましたが、水族も展示物と理解して良いのでしょうか？以前、科学館に来たときに、たくさん子どもたちが来ていました。3 歳くらいの子が水槽を見ていたのですが、私の目線と全然違って底ばかりを見ていました。底には藻があってお母さんに「これ何？」と聞いて、私もその水槽を見てみると小さな魚が藻を一生懸命つついていました。それは「えさ」とお母さんは答えておられて「このお母さん、賢いな。」と思いました。私やったら、「汚れてる？」と言っているだろうなと思ってしまったのですけれど。職員の方も一生懸命清掃しておられると思うので、水槽の管理って難しいだろうなと思っています。生き物の世話は本当に難しい。私は科学館が好きで、いろんな科学館に行ったことがあります。他の館で生き物を扱っているところはなかったように思います。他の館は、パネルで紹介などはされているが、それで精一杯なんだと思う。しかし、なぜ大津市科学館には生き物がいるかという「教育施設」という形でアピールしているから水槽があると思っています。子どもたちは大津市科学館に来たら、必ず見ていると思います。校外学習できた子どもたちも、高学年であっても特にビワコオオナマズは喜んでみていると思います。そこで、その水槽ですが、掃除をしてもらえるような業者はいないのかという思いを持っています。職員の手では現状が精一杯というのは理解できるし、ものすごい労力がかかっているはずですが、予算に関係してくるのはわかった上での意見ですが、業者に水槽の清掃を頼むことはできないのでしょうか？職員のみなさんの手では大変すぎると思うし、水槽がスカッとした見た目になれば良いなと本当に思います。水族アドバイザーの方に来ていただいているということですので、管理方法を学ぶことはできるかもしれませんが、その点についてどうにかならないかなと考えています。予算の確保は難しそうですね？

事務局：水槽については過去に教材関係の業者が清掃していたということがあるようで、その業者に相談し、こういった対応ができるか考えてもらっているところではあ

ります。以前は、掃除をしたか、研磨をしたかということなので、水替えなどで水槽が空っぽになるタイミングで一度来て、様子を見た上で具体的に検討して見積もりを出してもらうといった段取りで進めております。それまでは、職員の手で何とか頑張ろうと思っています。そして今、話にあった「水族アドバイザー」の方には昨年度から来ていただいています。その方は、元琵琶湖博物館の方で、年6回ほど来ていただきます。職員も魚について詳しい訳ではないから、飼育方法を教えてもらったり、一緒に掃除をしてもらったりしています。他にも、来館者に対して魚についての話をしてもらうこともあります。私も、以前水槽の担当をしていたので良くわかるのですが、磨いても磨いても藻がきれいに取れないです。そのあたりについてもより詳しくアドバイスを受けながら、良いコンディションを保てるように、水族管理を進めていきたいと思います。

委員：子どもたちは魚が大好きだと思うので、ぜひよろしくお願いします。

委員：今の話に繋がると、「もっと詳しくは琵琶湖博物館で。」というように大津市科学館と琵琶湖博物館が連携をはかることもできそうだと感じました。

委員：水族アドバイザーの方の事は良く知っていますので、魚の世話の仕方などは詳しく教えて下さるだろうと思いながら話を聞いていました。私は、専門は魚ではないのですが、水槽の管理は大変ということは知っています。毎日、手を入れないとなかなか満足いただける状態にすることはできないと思います。予算と相談しながら良いものを維持していただくと嬉しいなと思います。

委員：私は気になっていたけれど、参加できなかった「熟睡プラネタリウム」についてですが、昨年は11月でしたが、今年は9月に実施ということで何か理由があるのでしょうか？

事務局：プラネタリウム工事の関係で11月に実施することはできません。もともとは11月の勤労感謝の日あたりでの開催するものなのですが、昨年大変好評であったため、時期を前倒しして、9月に実施する計画をしています。

委員：なぜそう思ったかというと、写真を見ると枕を持っていたり、毛布を持っていたり、すごく楽しそうに見えるのですが、9月というまだ暑い時期に開催となると寝にくさがあるかと思うので寒い時期の方が良いかなと思ったからです。仕方がない話ではあると思うので、9月に実施ということで理解できました。個人的にも行きたいと思っています。

事務局：ぜひお越しください。まだ先のことで約束はできませんが、令和9年度は元の時期に戻す予定ですので、寒くなってきた時期に開催できたらと思います。

委員：10月からプラネタリウムの更新工事が始まり、来年度の春にオープン予定だということを楽しみに思っております。そんなプラネタリウムでも学習をする「かがくのこ」についてですが、大津市立小学校37校の内、参加は34校だとお聞きしました。参加していない学校はどういった理由から参加されていないのでしょうか？また、今年度は更新工事の関係もあり全ての学校が1学期中に実施されていますが、来年度は2・3学期も選択可能になるのでしょうか？

事務局：参加していない3校についてですが、その内の1校については隔年での参加を決めている学校です。この学校は3・4年生で校外学習などを行うとしているとのことなので、今年は参加されませんが来年は参加されます。あとの2校については、距離の問題で参加されていません。バスで来るにしても移動に時間がかかってしまうため、給食時間や、下校時刻をずらすなどの工夫をしないといけないという負担が大きいとのこと。そこについては、私たちもどうにかできないか考えているところですが、ひとつ言えるのは、その2校よりも遠い学校も参加しています。その学校がどのように参加しているかという電車で来られています。半日の校外学習ではなく、1日のものとして来られています。科学館だけでなく、近くの浄水場にも行って学習するという計画を立てられています。そういった良い工夫もあるので、こんな方法もあるということに参加していない2つの学校にも伝えてみて、検討してもらえないかと思っています。また、お弁当を食べる部屋については生涯学習センターの貸室を利用しているのですが、「かがくのこ」については、各学校が予約するのではなく、科学館でその部屋を確保するというのを伝え、できるだけ学校が参加しやすい環境を作っていきたいと思っています。そして、時期についてですが来年度は5月～12月の実施で考えているところです。幅広い期間の中から、参加しやすい時期を考えてもらいたいと思っています。

事務局：リニューアルオープンについてですが、3月で引き渡し、4月から操作の練習など投影に向けての準備をして、5月のGWにはリニューアルオープンができるように進めていこうと現状考えています。

委員：中学校でも、せっかく近くに科学館があるのだから、子どもたちを連れて行けたら良いと思うのですが、「かがくのこ」以外にも、子どもたちを連れてきている小中学校はありますか？

事務局：中学校については、学年全体を引き連れてというものではないですが、子どもたちがそれぞれ行きたい施設を選ぶグループ学習で利用していただくことがありました。私たちとしても中学校にも来ていただきたいと思います。大津市の中学校は減免対象であるので、交通費は必要ですが、施設を利用いただくことにおいては無料です。中学校の方でも積極的に考えていただけると嬉しいです。

委員：いつまでに申請すれば良いのですか？また、申請は個人ではなく学校としてということですか？

事務局：一週間前までです。学校として申請してください。現状、学習投影として行っているのは小学生が主ですが、中学生が来ても良いように私たちは準備しています。プラネタリウムの良さは、平面的ではなく空間的に星や天体をとらえることができ、子どもたちにとってイメージしやすく、学びやすい環境が整っているかと思っています。また、「こういう学びがしたい」という要望があれば、私たちの勉強にもなりますし、そういった学習内容を提供することができるかと思うので、ぜひご検討下さい。

委員：ハートフルプラネタリウムという取り組みを聞いて、まさにこういうのがあれば良いなと思っていたところだったので、非常に嬉しく思っていました。まずはその感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございます。こういった経緯で、この取組をされることになったのか教えていただきたいです。

事務局：実際にそういった要望を聞くことがあります。メールをいただいたこともありますし、来館いただいた方が、「ご迷惑をかけるといけないので」ということで遠慮されるということが結構あります。それなら、泣いたり、騒いだりしてもお互い様という回をしても良いのではないかと考えたのがきっかけです。今年初めての取組ですが、たくさんの方に利用いただけるようであれば回数を増やすことも今後検討できるかと思っています。

委員：このハートフルプラネタリウムは、大津市独自のアイデアですか？

事務局：どこかのプラネタリウムがやっていたからやってみようと思ったわけではありません。職員で話し合い、考えたものです。ただ、調べてみると似たようなことをしているところもありました。なので、どの館もたくさんの人に来てもらいたいという思いを持っておられるのだろうと感じていたところです。熟睡プラ寝タリウムの話に戻りますが、これについてはある館が先頭に立って「ぜひやりましょう」と全国的に発信してくださっており、大津もそれに参加したという形になります。

委員：私はデイサービスセンターとの関わりがあるのですが、お年寄りは日頃、出かけたけれど出かけられないということが良くあるようです。出かけるチャンスが欲しいというようなことも感じています。そういった施設に、直接案内を出すなどするとよりたくさんの方に科学館を利用いただけるのではないかと考えています。検討いただけると嬉しいです。応援しています。

委員：私は、科学館ではこんなにたくさんの事業をしているのだということに驚いておりました。「かがくのこ」は知っていたのですが、発明クラブや I F クラスなど魅力的なものがたくさんありますね。1つ気になったのは、この魅力的な事業は誰がやっているのですか？科学館の職員だけでそれをおこなわれるのかどうか気になりました。もう1つ、広報活動についてです。来たらもちろん楽しむことができるだろうけど、来る前からわくわくするような広報を頑張っていたいただきたいと思いました。もうやっておられることかもしれませんが、何を使って広報するかということも大事ですが、どんな事を伝えると来てもらえるかということを考えると良いと思っています。簡単に言ってしまいましたが、それをするにも人手が必要だと思うので大変だと思います。その広報活動についても誰がやっておられるのでしょうか？教えてください。

事務局：事業につきましては、科学館職員でやっているもの、外部講師に報償費を払ってやっているものがあります。広報については、科学館職員でちらしの作成をしたりホームページや X の更新についても職員でしています。先ほど、ご意見いただいた「来る前にもわくわくできるような広報」ですが、今ホームページについて動いていることがあります。現行のものはスマートフォン対応になっていないページなのですが、スマートフォンでも見やすい、操作しやすいのものに更新しようとしています。また利用者だけでなく、こちらの編集作業なども容易にできるような仕様になる予定です。そうなることで特定の者だけでなく、よりたくさんの方で広報活動に励むことができるので、発信力が上がると思っています。

事務局：広報の方法ですが、主に広報おおつ、X、大津市公式 LINE を使っています。意見をいただいたように、どれだけいろんな事業をしても、知ってもらえないからには来ていただけないということは、私たちもすごく意識しています。X では、日頃あること、あったことを中心に科学館の様子を発信しています。LINE については、今こういった事業の参加者を募集していますということや、今度こんなイベントがありますといったことを発信しています。LINE の影響力はすごいなと感じているところなのですが、みなさんは大津市公式 LINE に登録されていますか？ぜひ、登録いただければと思います。この3つが主なのですが、もっと幅広く広報活動していかないといけないなとも思うので、そういったアイデアがあればぜひみなさんに教えていただきたいです。

事務局：今、説明した3つの方法が主だということは間違いないのですが、大津市には広報課がありますので、プレス発表やプレスリリースをすることもあります。ありがたいことに新聞記事に掲載いただくこともあります。発信をいかにしていくか、意識することは本当に大事なことだと思います。委員のみなさんにも、科学館の良さを発信いただけると嬉しく思いますので、ぜひよろしくお願い致します。

委員：私が所属する幼稚園からは5歳児が毎年利用させていただいています。遊びながら科学に触れたり、プラネタリウムを見たりすることをすごく楽しんでいる姿がいつも見られます。プラネタリウムの更新があるということで、来年もますます楽しみになりました。5月以降には再開予定ということですが、園として利用させていただくのも同じタイミングで可能ということでしょうか？暑くなる前に行きたいと思っているので気になりました。教えてください。

委員：今日、話を聞かせていただき、これだけたくさん事業をされているのだという発見がありました。私自身、科学館には久しぶりに来たのですが、以前にはなかった新しい体験型のものなどが増えていて随時更新されているのだということを感じていました。やはり、科学館という場所は子どもたちの知的好奇心をくすぐるのが大事だと思います。そう考えると、新しい科学に触れるために随時更新していくということが費用なのだろうと思います。その点でいうと、東レや日本電気硝子の技術についての展示が隅っこの方にちょこっとあるだけのように感じたので、最新の科学技術を子どもたちがもっと身近に感じられるようなものがもっとあっても良いのではないかと感じます。確かに、先人が見つけてこられた科学知識の基礎的な事も大事だと思いますが、これだけ科学技術が発展してきているので、科学館に来ればそういったことを学ぶことができるというようになれば、子どもたちにとってより魅力的な施設になるのではないかと思います。そのためには、またお金が必要になるかとは思っているので、企業や大学との連携をもっと増やしていくと、展示物の更新にも繋がるのではないかな？と考えていました。あともう1点、残念に思ってしまったことがあります。それは、キッズスペースです。入ってみると歯車が回ると、既存のおもちゃが置いてあるというような環境でした。これでは、幼稚園の子どもたちは満足できないのではないかと思います。この時期、科学的な思考を働かせる遊びをしていて、雨どいを使って水の流れを観察していたり、水に色をつけて混ぜたり、濃いもの薄いものを作ったり、肌感覚で子どもたちが知的好奇心を高めていると思っています。そんな遊びがいっぱいあるので、キッズスペースにも幼児が肌感覚で科学的思考を働かせることができれば良いなと感じました。3階に行っても、「幼児はできません」という表示があるところも見たので、それならキッズスペースに幼児が科学的体験を楽しむことができる幼児目線で考えた工夫をもっと増やしてもらえると嬉しいなと思いました。

委員：先日、孫と一緒に来ましたが、その孫は1歳5か月です。ハイハイがやっとできるようになったような年齢です。キッズスペースをどれくらいを対象に考えるのが大事だと思うのですが、その日一緒にいた別のお客さんが「ここはすごく掃除が行

き届いているね」とおっしゃっていました。また、ショッピングモールにあるようなキッズスペースは床が板だそうで、ここはそうじゃありません。だから子どもたちが過ごしやすいということをおっしゃっていました。だから、それくらいの子どもにはすごく良い空間なのだと思います。サイエンステーブルだとか水槽の前のものだとか、幼児が喜びそうなものもいっぱいあるなとも思っています。キッズスペースの在り方を幼児目線も加えて、考えていくと良いのだろうと思いました。

事務局：貴重なご意見をありがとうございました。考えたことが無かったような視点もあり勉強になりました。科学館は、本当に幅広い層の方に来ていただき、満足して「また来たい」と思って帰っていただけるような施設でありたいと思っています。キッズスペースは家族で来た時に、幼い子が少しゆっくりしたいなと思われたときに使われることも多いかと感じます。そこで、科学的思考をくすぐるようなことができるとまた科学館の魅力が増すと思うので、職員で検討していきたいと思っています。

委員：みなさんの話を聞いていて、生活の裏というか、「これ家にあるやつや」とかそういう視点で考えることができるとより良い空間になるのではないかと思います。私も勉強になりました。ありがとうございます。

委員：別の話になりますが、先程「さわれる地球」を使って少し解説いただいただけでもすごくわくわくしたので、改めて科学のおもしろさを感じていました。また、プラネタリウムの更新がすごく楽しみです。一つ気になったのが、星について詳しい職員の方と来館者の交流はあるのかということです。こういった関りがあると、科学館の良さを感じてもらえる効果が倍増していくように思うので、検討いただければと思います。

事務局：職員との交流の時間としてはとっていないですが、投影が終了したタイミングで、来館者を送り出す際に話すことはあります。今ですとプラネタリウムの出入口付近に SORA-Q というレプリカの月面探査機が置いてあります。それに注目した方が質問してくださることとかも多いです。私たちとしても、そういった時間はすごく楽しいですので、これからも来館者の方との交流の時間も大切にしていけたらと思います。

委員：小学校の立場で言うと、「かがくのこ」で行くから、他の学年では来にくいという状況もあると思っています。そこを変えていくことが、より科学館を利用する学校が増えるポイントなのではないかと思います。生涯学習センター全体にクイズを掲示するだとか、膳所公園や膳所支所にも広げて学ぶことができるようにするだとか、別プログラムも考えると他の学年も来なくなるのではないかと思います。あと、ここには貸室があり、昼食をとることも可能だということですので、かなり魅力がある施

設だと思います。科学館からさらに広域的に考えてプログラムを考えられると良いのではないのでしょうか。勝手なことを言っているし、すごく大変なことであるということ
は良くわかっていますが、よろしくお願いします。

委員：最先端技術が学べる場があると良いなという話ですが、企業側としてもPRしたいと思っています。企業側も、会社のスペースにショールームを作っているところもありますが、なかなか見に来てくれる人がいません。小学生・中学生に大津市の企業はこういったことをしているんだぞということをもっと発信したいという思いを持っているはずです。企業秘密であることは外に出せないと思いますが、PR用の動画を作っているのではないのでしょうか。科学館がそういった動画を流すことができるような場になるのであれば、科学館にとっても企業にとってもWinWinの関係になるかと思うので、ぜひ、企業との連携を強めてもらえればと思います。

委員：質疑応答は以上でよろしいでしょうか？では、終わります。ありがとうございました。